

教会生活

イエス様の恵みによって救われた私たちは、神様を父とする神の家族のメンバーとなります。キリストのからだである教会のメンバーとなるのです。神様の愛を受けた私たちは、与えられている賜物を用いて、互いに仕え合い、愛し合うことで、神様の愛をあらわします。この課では、教会のメンバーとしてどのように歩んだらよいか考えてみましょう。

この課で学ぶこと

1. 教会での交わり

- (1) 三位一体の神様との交わり
- (2) クリスマン同士の交わり
- (3) 交わりをきよく保つために

2. 教会のメンバーとして

- (1) 教会の活動を支える奉仕
- (2) 経済的必要を支える献金という奉仕



●考えてみましょう

あなたは教会の中で誰とよく話しますか？

1. 教会での交わり

教会では「交わり」ということばをよく耳にします。「交わり」は、ギリシャ語では「コイノニア」と言います。初代教会がスタートして以来、クリスチャンたちは「交わり」を大切に、その愛の中で教会という人の集まりが大きくなっていったのです。「交わり」は、大きく二つに分けることができます。それは三位一体の神様との交わりとクリスチャン同士の交わりです。(1ヨハネ 1:3)

(1) 三位一体の神様との交わり

三位一体の神様は、唯一のお方ですが、決して孤独ではありません。天地万物を創造される前から、父なる神、子なる神(イエス・キリスト)、聖霊なる神の間で、愛の交わりを持っておられます。そしてこの交わりに私たちを加えてくださいました。けれども人の罪ゆえに、三位一体の神様との交わりが断絶してしまいました。そんな私たち人間との愛の交わりを回復するために父なる神様はイエス様を人として地上に遣わしてくださり、私たちの身代わりとして十字架にかけてくださったのです。このイエス様の尊い犠牲によって、私たち人間の罪は赦され、大胆に父なる神様に近づき、交わりを回復することができました。(神様との交わりについては Lesson2 を参照してください)

(2) クリスチャン同士の交わり

三位一体の神様との交わりが縦軸とすると、クリスチャン同士の交わりは横軸となります。ちょうど十字架の形になります。また三位一体の神様との交わりも、ただ個人個人の交わりではありません。教会は「**キリストのからだ**」(エペソ 1:23)と聖書に書かれていますが、

私たちはキリストのからだの一部として、三位一体の神様と交わることが求められています。その上で、私たちはお互いに主なる神様から与えられた賜物を用いて、他の人たちの益と救いのために、交わりを深めていくのです。使徒の働きや手紙から、クリスチャン同士の交わりをいくつかに分類することができます。

① 礼拝による交わり

礼拝は三位一体の神様との交わりであり、神の家族としての交わりでもあります。ともに三位一体の神様を見上げ、賛美し、主の恵みを味わうとき、私たちのうちに大きな喜びと感謝があふれてきます。これこそキリストにあって救われ、神の子とされた私たちの何のものにも代えがたい交わりでしょう。



コラム

最初の教会の交わり

聖書の中で最初に「交わり」ということばが出てくるのは、使徒の働き 2 章です。ペンテコステの日に、聖霊に満たされたペテロが語った福音を聞いた 3000 人ほどの人がバプテスマを受け、最初の教会が誕生しました。42 節によると「彼らはずっと、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた」とあります。ここに「交わり」が記されているのです。

② 食事による交わり

イエス様は弟子たちだけでなく、様々な人たちと食事をされました。その中には、人々から避けられ、罪人とされる人々も含まれていました。これはイエス様が罪人たちを友として受け入れられたということです。また初代教会でも、食事の交わりはとても重要でした。食事を共にすることで心が開かれ、恵みを分かち合い、貧しい人々たちを助けることができたから



です。同じように私たちも食事による交わりを通して、お互いを受け入れ、愛し合っていくことができます。

③ 祈りによる交わり

お互いの感謝、苦しみ、問題、必要を知り、一緒に祈ることで、主を中心とした交わりを持つことができます。祈りの交わりは遠く離れていても、近くにいるかのように心を通わすことができるのです。

④ 支えることによる交わり

ピリピのクリスチャンたちは、パウロたちの宣教を助けるために必要な物資を二度も送りました(ピリピ 4:16)。聖書は、こうした支援も「交わり」と呼んでいます。教会にいる兄弟姉妹を助けること以外にも、開拓教会など他の教会を支援したり、開発途上国にいる兄弟姉妹を援助すること、献金をささげることで、主にある交わりを持つことができます。

(3) 交わりをきよく保つために

① 交わりを保ち続ける

交わりはクリスチャンの成長のためにはなくてはならないものですが、私たちは完全な者とされたわけではないので、互いにつまずくことがあります。それでも教会という交わりから離れないために何が自分にとって課題なのか、交わりを保ち続けるにはどうしたらよいかを祈りつつ考えてみましょう。先輩クリスチャンや牧師に相談することも大きな助けになると思います。

② 交わりをきよく保つための方法

救われても、間違いを犯したり、教会の愛の交わりを乱してしまうことがあります。それらをそのままにしておくことは教会にとって、決して良いことはありません。そのため教会には戒規というものがあります。主イエス様は「もしあなたの兄弟があなたに対し

て罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たことになります。もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。…それでもなお、言うことを聞き入れないなら、教会に伝えなさい」(マタイ 18 : 15-17)と語られています。

戒規の目的は、第一に罪を犯し、罪の中にある人が悔い改めて、主なる神様と教会との交わりに復帰することです。罪を犯した人を責めて、教会から排除するためではありません。第二に、教会の中に罪がとどまることを防ぎ、教会のきよさ、一致、平和を保つことです。

2. 教会のメンバーとして

私たちには神様からそれぞれにふさわしい賜物が与えられています。ある人は「私なんかには賜物なんてない」と思うかも知れませんが、そんなことはないのです。ペテロの手紙第一 4 章 10 節には「**それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい**」とあります。ですから自分の賜物、神様から与えられた恵みを用いて、神様に仕え、教会に仕えることが私た



コラム

祈られる幸い

「毎週、あなたのことを覚えて祈っているよ」と言われると、とても嬉しくなります。祈りのリクエストをし、祈ってもらおうと、状況は変わっていなくても、心に平安が与えられるのです。祈りの交わりは、私たちがクリスチャンとしてこの世で歩いていく上で大変重要です。パウロも手紙の中で何度も「私のために祈ってください」と記しています。ぜひ祈ってもらいましょう。そして他の人のために祈りましょう。

3 教会生活

ちに与えられた尊い使命とも言えます。

では具体的に私たちは賜物を用いて、どのように神様に仕え、教会に仕えていくのでしょうか。一つは教会の活動を支える様々な奉仕と、もう一つは教会の経済的必要を支える献金という奉仕です。

(1) 教会の活動を支える奉仕

教会の中での一番の奉仕は何でしょうか。何よりも主なる神様を礼拝することです。この奉仕はすべてのクリスチャンがささげるものです。そして礼拝プログラムを進めるために司会、奏楽、受付、祈祷、献金当番、聖書朗読、音響、映像、説教などの奉仕があります。その他、役員・執事、教会学校のスタッフ、会計、掃除、祈祷会出席、週報作成、送迎、トラクト配布、昼食作りなど、教会には多岐にわたる奉仕があります。それらの奉仕を通して、私たちは神様と人に仕えていくのです。自分に神様がどんな賜物を与えてくださっているかはやってみないとわからないことも多いので、積極的にいろいろな奉仕にチャレンジしてみましょう。

(2) 経済的必要を支える献金という奉仕

教会が活動するためには、経済的な支えも必要です。そのためにクリスチャンは神様に献金をささげます。献金は、主なる神様の愛と恵みに私たちが応えるための手段として神様が教えてくださったものです。

① 献金の心得

私たちに与えられる多くのものは、私たちが汗水流して得たものではありませんが、そのすべては神様からの恵みです。その中の十分の一を神様にお返しすることで、すべての必要を神様が満たして下さることを覚え続けることができます。マラキ書にはこのように書かれています。「十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の

食物とせよ。こうしてわたしを試してみよ…わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか」(3:10)。献金は神様にささげるものですが、そのことを通して神様は祝福を与えようとも言っておられます。

献金をささげることで、私たちは主への感謝と献身を表すことができます。そのため献金は人に対してではなく神様の前になされること、そして神様がささげる私たちの心をご覧になっていることを忘れないようにしましょう。神様は私たち一人ひとりに必要なものをすべて備えてくださる方ですから、信仰と感謝の心をもってささげましょう。

② 献金の種類

献金には、月定献金、礼拝献金、感謝献金、特別指定献金などがあります。旧約聖書には十分の一を神様にささげる律法があり、神様への務めとして守られてきました。この献金をイエス様も「**おろそかにしてはいけない**」(マタイ 23:23)といわれています。何よりも神様は喜んでささげる心を喜んでくださいます。(II コリント 9:7)

礼拝献金は主の日の礼拝ごとにささげる献金です。一週間の守りを感謝して、心で決めた額をささげましょう。感謝献金は、神様の恵みや祝福を覚えて、特別な感謝をささげる時の献金です。イースター、クリスマス、誕生日、洗礼記念日、結婚記念日、入学、卒業、退院、結婚などを覚えてささげましょう。特別指定献金は、特別な計画・目的のためにささげるものです。国内外の宣教支援、会堂建設のため、他教会の必要のため、伝道諸団体への協力金、神学校賛助献金などもあります。

まとめ

教会のかしらはイエス・キリストです。私たちは、神様から与えられた賜物を用いて、神様と互いとの交わりをもち、互いに仕え合うことで、キリストのからだなる教会を建て上げていきます。「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります」(エペソ 4:16)。この愛のある教会が世の人々にイエス・キリストを証しするのです。

Q

話し合ってみましょう

1. あなたは今後さらにどんな交わりを持ちたいですか？
2. 奉仕を通して、どんな恵みをいただいたことがありますか？